

## 会議の概要(議事録)

会議の名称	(番号) 3-08	平成28年度第6回すみだ環境共創区民会議		
開催日時	平成28年9月15日(木) 18時30分から20時00分まで			
開催場所	墨田区役所12階 122会議室			
出席者数	【委員13人】 阿久沢委員、宇田川副会長、笠貫委員、小木曾委員、 島崎委員、清水副会長、寺島委員、永岡会長、野島委員、 本間委員、柳委員、吉田委員、渡辺委員 【事務局3人】 環境保全課長、環境管理担当主査及び職員			
会議の公開 (傍聴)	公開(傍聴できる)	傍聴者数	0名	
議題	1 すみだ環境の共創プラン進捗状況評価について 2 すみだまつりについて			
配付資料	すみだ環境の共創プラン進捗状況評価資料			
会議概要	<p>1. 当日の会議内容</p> <p>(1)すみだ環境の共創プラン進捗状況評価について すみだ環境の共創プラン(改訂版)についての平成27年度の進捗状況を報告し、各委員から意見を聴取した。</p> <p>(2)すみだまつりについて 10月1、2日に実施されるすみだまつりについて、ブース内の展示内容とレイアウトの検討をした。</p> <p>意見交換における主な意見 ( :事務局発言 委員発言)</p> <p>すみだ環境の共創プランについて 達成できた指標、できなかった指標といろいろあるが、必ずしも達成できたから良いとか、達成できていないから悪いというのではなく、この結果を受けて、区民は何をこれからしなければいけないのかを考えることが重要である。例えば、重点プロジェクト1で書かれている監視体制を継続することは確かに大切だが、指標にある環境基準を超えた箇所数や値は区民の頑張りでもできるものではなく、行政が指導、監視を続ける以外に達成できる方法はない。こうした指標については見直しが必要ではないか。社会情勢や技術革新など、社会を取り巻く環境は日々変わっているのに、何年も昔の指標をずっと使い続けるのは、評価手法として正しいものなのか疑問に思う。区民の身近に感じることや、墨田区民は何をしたのか、す</p>			

べきかというものを実績評価に組み入れた方が良いのではないか。

中間改定を含めると、プランは5年ごとに改定している。5年も経つと社会環境は変わり、指標が時代に即さなくなるというのは共創プランのみならず、墨田区の他の行政計画でも言われている。しかし、行政計画は1年単位で内容や方針をコロコロ変えることは難しいのも事実であり、今のところは5年、10年の計画や評価になってしまっている。

なお、28年度からのプランについては、現在のものとはまた別の指標を設けている。

行政計画が変更しづらいというのは理解できたが、それでは変更しない部分と変更する部分と、分けて考えることはできないのか。これだけ世間が水害や豪雨で騒いでいるときに、区の指標や評価に災害に関することがないというのはどうなのだろうか。今こそ、そうしたことを考えるべきではないか。

重点プロジェクト4の緑被率やみどり率の推計について、平成31年度には再調査するということがいいのか。

調査しないと次の計画を立てたり評価をすることができないので、31年には実施されるものであると考えている。進捗評価で出している推計値は区独自で出しているものであり、あまりオープンにできるものではない。早く公式の実測値を知りたいので、個人的にはもう少し前倒して調査を実施したい気持ちはある。

重点プロジェクト1の環境監視体制の強化というタイトルの文言と、環境基準を超えた箇所数という指標は関連性がないと思う。環境監視体制の強化というのは、例えば測定箇所数を増やしたことや、測定頻度を増やしたということを目指すのではないか。

また、重点プロジェクト3ではみどり率や緑被率のことしか書いていないが、平成21年度の緑と生物の現況調査をおこない、今後は緑の質について考えるということでもまとめられたはずである。今後の施策のところに緑の質についての言及はしなくてよいのか。

緑の質については評価指標としていないが、2年に一度実施している住民意識調査では、緑感が向上したという結果が出ている。

緑の質についてどのような意見が出ているのかを知りたい。東京都の環境計画では、在来種による緑化を推進するということで緑の質について言及しているが、区はどのように考えているのか、区民からは緑感についてどのような意見が出ているのかを教えてほしい。

住民意識調査の結果が今手元にないので、この場でお答えはできない。平成28年度以降の新しいプランでは緑感について言及されているので評価指標とも関連していくことになると思う。

なお、本日意見を聴取している進捗状況を評価している平成27年度までのプランについては、緑感という文言や概念が無いので、今ある指標や今出ている数値に関しての意見や評価をお願いしたい。

表現の仕方については行政側の意向もあると思うので、そこを指摘しても意味はないと思う。課題のタイトルと結果の整合性はないということで断れば問題はない。それを言ってしまうと、重点プロジェクト5のネットワークづくりについても、どことどの団体が結びついたから目標達成、で終わってしまう。むしろ我々が考えないといけないのは、結果についての分析と、それを今後どのように活かすかということである。

進捗状況評価については、共創プランですみだの環境は区と区民と事業者の3者が協力して創ると書かれてあるので、もう少し文書は区民目線で書いてもらいたいと思った。区民がこれを読んで、自分が何をすればいいのか分かるような文書にすることが必要ではないか。

これは議会答弁ではないので、区は区民に何をしてほしいのか、区民は何をすべきなのか、もっと踏み込んだところまで書いても良いと思う。

せっかく作った評価書なので、その結果を基に区民を巻き込んでいけるような資料にしなければもったいない。

区民に対して、環境問題に興味・関心を持ってもらいたいということを発信したい。そのための材料としても評価書が活用できるとよい。

重点プロジェクトの中に「環境体験型のプログラムを拡充し～」という記述がある。今までふれあい館で実施している事業を他で実施するということだと思うが、当然場所の手配等で予算が前年度よりも多く必要になると思う。これは、環境保全課が予算を増額要求するということに約束するものなのか。

評価一覧の中では、平成27年度の実績を評価し、平成28年度以降にどのように事業を進めていくかということについて記述している。来年度の予算については、現在積算しているところであるため、来年度の予算がどのようになるかは現時点では不明である。

なお、本年度については、小・中学校の夏休みの時期に夏休みプログラムという参加体験型の啓発事業を全部で18回、新規に実施した。

他の委員も発言していたが、区の実績を書くだけではなく、講座を受講した区民に、どのようなことをやってもらいたいのか、どのように進化してもらいたいのかということまで書かれた方が良いと思う。環境の「共創」なので、私たち区民に何ができるのか、何をしなければならないのかが記述されていると、進捗状況評価を目にした区民に対してもいい情報発信になる。

繰り返しになるが、この場合は議会答弁ではないので、区が何かをやったこと、やっていないことに対して追及するのではなく、何を入れたら良いか、どのような表現にしたらいかなど、一緒に検討することが重要であると思う。

すみだまつりについて

	当日の区民会議のブースについて、レイアウトや掲示物の配置などについて議論し、当日の従事予定について調査をした。 従事予定については一覧を事務局で作成し、別途送付することとなった。
所 管 課	都市整備部 環境担当 環境保全課 環境管理担当 内線 5472